

令和5年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 長崎県長崎市尾上町3-1
管理機関名 長崎県
代表者名 知事 大石 賢吾

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年4月1日(契約締結日)～ 令和5年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 長崎県立松浦高等学校
学校長名 舟越 裕
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

松浦高校『まつナビ・プロジェクト』

4 研究開発概要

長崎県立松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、生徒の課題解決能力を高めること等を目指した、3年間の連続性のある「まつナビ・プロジェクト」に進化させる。次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し、研究開発を行う。

Ⅰ 地域を愛し大切にす姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発

Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- | | | | |
|-------------|--|---|----------------------------------|
| ・学校設定教科・科目 | <input checked="" type="checkbox"/> 開設している | ・ | <input type="checkbox"/> 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 活用している | ・ | <input type="checkbox"/> 活用していない |

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
佐々木龍二	元長崎大学サテライトオフィス松浦・コーディネーター	無
本田 道明	長崎県立大学・学長補佐	学識経験者
加藤 久雄	鎮西学院大学・教授	学識経験者
前田 幸輔	西海みずき信用組合 地域振興室	有識者
川浪 剛人	自営業（前まつうら創生推進室長）	地域住民代表
伊東 啓行	県企画部政策企画課 企画監	関係行政機関職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
松浦市	市長 友田 吉 泰
松浦市議会	議長 谷 口 一 星
松浦市教育委員会	教育長 黒 川 政 信
松浦市小中学校校長会	会長 川 原 祥
松浦市商工会議所	会 頭 稲 沢 文 員
松浦高校PTA	会長 川 下 高 広
松浦高校同窓会	会長 藤 田 英 敏
長崎大学 教育学部	教授 藤 本 登
長崎県立大学 地域創造学部	教授 吉 本 諭
エミネントスラックス株式会社	社長 前 田 周 二
松尾農園	代表 松 尾 秀 平
長崎県教育庁高校教育課	課 長 田 川 耕 太 郎
長崎県立松浦高等学校	校 長 舟 越 裕

8 カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	井手 弘人	長崎大学准教授	②
海外交流アドバイザー	—	—	—
地域協働学習支援員	中上 徹	日本教育公務員弘済会長崎支部	②

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①運営指導委員会開催				○								○
②コンソーシアム会議開催				○								○
③学校訪問指導(生徒発表会)		○		○		○			○	○		○

④研究指定校等に係る研究報告会													○	
-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

(2) 実績の説明

- ① 6名の運営指導委員を人選し、年2回の会議を実施。
- ② コンソーシアム構成機関の代表によるコンソーシアム会議を開催し、指定校との協力体制について確認。
- ③ 指定校における課題研究構想発表会（5月）、課題研究中間発表会（9月）、課題研究校内発表会（12月）、課題研究発表会（1月）に講評者や審査員として参加、その後、連携機関、学校の管理職・担当者と協議。また、7月、3月には校内での活動の様子を参観した。
- ④ 令和4年度研究指定等に係る研究報告会（オンライン）にて、取組状況の報告及び研究協議。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目		実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	A教科横断型と地域連携の授業づくり							1	1	1			1
	B課題研究活動に必要な知識・技能習得	1	2	3	1		1	1					
	C研究テーマ設定								3	3	2	2	2
2年	D研究構想	1	2	3									
	Eフィールドワーク				1			1	1				
	F中間発表・振り返り					1	2	2					
	G校内、課題研究発表・振り返り							2	3	2	2		
3年	Hまつうら仕事図鑑（仮称）											2	2
	Iこれまでの研究成果に関する論文作成		1					1					
	J校内発表における提案事項の校外実践							1	2	2			

※表中の数字は当月中の実施回数

(2) 実績の説明

【1年生】

- ① 「A教科横断型と地域連携の授業づくり」について
 - ・ 下記の教科横断型と地域連携の授業づくりを行った。〈開発単位 I〉

【授業実践例】

教科・科目 実施日	授業内容	まっナビ・プロジェクトと リンクする授業目標
9月26日 地理総合	台風を教材に防災について知るための長崎地方気象台とのコラボ授業	専門的な台風等防災への知識・教養を深める。また、台風通過時の授業で自然災害の見識を高めた。
10月26日 歴史総合	淀姫神社における伝統的な流鏝馬見学	歴史総合の一環として、地域を愛し大切にする姿勢の育成
11月18日 地理&数学	エラトステネスになって、地球の大きさを測定しよう	論理的な思考で課題に取り組むことができるようになる。
12月6日 歴史総合	国学院大学池田教授による、鷹島における元寇船の引き上げの講話	歴史総合の一環として、地域を愛し大切にする姿勢の育成
12月20日 国語&英語	国語と英語で学習する「使役動詞」を比較してみよう	課題発見能力を高める。
3月3日 商業&まっナビ	今後の研究構想発表会や2年次の研究に向けて、効果的なパワーポイントの作成法を身に付けよう	プレゼンテーション能力の育成

②「B課題研究活動に必要な知識・技能習得」について

- ・1年生が探究の手法や必要なマインドセットを身に付けるために、外部講師による探究講演を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・松浦市その近隣都市の現状を知り、歴史等についての情報収集を行うために、生徒が企画した、バスツアーを実施した。その後、見学した内容等をまとめ、発表会を行った。

〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

【ツアー内容】

- A：地域貢献・地域活性化コース…大山公園、いろは島、伊萬里百貨店等
- B：人口・環境問題コース…県立大、佐世保パールシーリゾート等
- C：産業コース…エミネントストラックス、ツナファーム、エンマキ等
- D：歴史・国際・文化コース…文化財センター、今福神社、姫神社、淀姫神社等

③「C研究テーマ設定」について

- ・地域課題の解決に向けて「自分ごと」として研究活動を進めるために、これまでの学習を参考としてファシリテーター（教員）の支援を受けながら、テーマ設定を行った。

〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

【2年生】

④「D研究構想」について

- ・1年次に設定した課題研究テーマについて、今後の活動方針を示すために、2年次の5月25日に課題研究の内容等について構想を発表し、コンソーシアム関係者等から助言を受けた。生徒は、振り返りを行うとともに、以後の研究の進め方について検討した。

〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

⑤「Eフィールドワーク」について

- ・今後の研究の充実に向けた情報の収集とコミュニケーション力の育成するために、2年次に事業所等の見学や体験、インタビューなどを計画し、実施した。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

⑥「F 中間発表・振り返り」について

- ・課題研究の方向性等について確認するために、2年生が9月28日に研究の進捗状況等について発表し、コンソーシアム関係者等から助言を受けた。生徒は、研究の振り返りを行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

⑦「G 校内、課題研究発表・振り返り」について

- ・中間発表からのブラッシュアップの成果を発表するために、2年生が12月14日に校内発表会を実施し、1月18日（水）には、その発表会で選ばれた5つの班による課題研究発表会を、松浦文化会館で実施した。なお、残りの班はポスターセッションを行った。

※代表グループ発表テーマ

	プロジェクト名	内容
5班	QRコードで手軽なマップ作成	QRコードで人気店舗の紹介マップ作成
6班	松高生と地元のお店でお菓子の共同開発	「まるぼうろ」にチョコレートコーティング
7班	タルタルプロジェクト	アジフライに合うタルタルソース作り
8班	サスティナブル×松浦	廃油を利用して石鹸を作成
9班	私松わ、いつまでも松わ、松浦キッチンカー祭	キッチンカーを呼んでイベント開催

※ポスターセッショングループ発表テーマ

	プロジェクト名	内容
1班	あなたは何しに松浦へ	松浦市を訪れる観光客へのパンフレット作成
2班	お気に入りのスポットを紹介しよう	松浦市内のお店でスタンプラリー
3班	現在の松浦のお土産事情とこれからの活動	新しいお土産の提案（お菓子）
4A班	ゲームを通じて松浦の魅力を伝える	各種イベントにゲームを持ち込む
4B班	究極の松濃（まつこう）ダレ	アジフライに合う究極のソースづくり
10A班	松浦を知ってもらおう	松高生による松浦高校ツイッター
10B班	マツドリー焼きの販売について	松高特製マツドリー焼き販売

⑧「H まつうら仕事図鑑（仮称）」について

- ・キャリア形成力や郷土愛を育むとともに、課題設定能力を高めるために、地域の方々に働く意味や喜び等についてインタビューを行い、それを各グループでまとめる取り組みを行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

【3年生】

⑨「I これまでの研究成果に関する論文作成」について

- ・3年生は「自分と将来」について考えるとともに、ふるさとへの思いを大学進学や就職など実際の進路実現に反映させるために、キャリア開発に向けて作成した本校独自の「ポートフォリオ」に3年間の研究の成果をまとめた論文を作成した。〈開発単位Ⅰ〉

⑩「J 校内発表における提案事項の校外実践」について

- ・前年度の課題研究において提案していたものについて、実践活動を行った。
例) 松浦鉄道松浦駅のホームのスロープへの手すり設置 〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・11月2日（水）14:50～15:40に松浦市立福島中学校を3年生6名が訪問し交流会（カタリバ）を行った。交流会を通して、松浦高校を知ってもらうことや、高校生活全般について中学3年生が疑問や不安に思っていることを少しでも払拭する

ことを目標とした。福島中学校生徒4名の班に1名入る形式で実施した。参加した松高生6名は2年次のまつナビの各班の班長で、「高校の勉強は難しいですか」「部活動との両立は大変ですか」などの質問に、熱心に答えていた。

(3) 研究開発の実施体制について

- ①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
 - ・「まつナビ・プロジェクト」を中心に据え、本校の教育活動全般において育成を図る資質・能力を「課題発見力・テーマ設定力」「論理的思考力」「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」と設定した。
 - ・カリキュラム等開発専門家である長崎大学准教授等や学年副主任やキャリア形成部といった、校内外のメンバーで構成されるプロジェクトチームの協力を得ながら検討し、地域との協働による探究的な学びをより充実させることを目的とした、PDCA サイクルにもとづく、カリキュラム・マネジメントを推進した。
 - ・検討内容については、コンソーシアムで報告し、今後の研究活動等の進め方についての協議を行った。また、運営指導委員会による指導助言等を踏まえ、「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させることで、生徒の深い学びの実現を目指してきた。
 - ・「まつナビ・プロジェクト」の各研究活動においては、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習支援員を交えた振り返りを行い、研究活動の改善を図った。
- ②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）
 - ・1学期に本事業の探究の手法やマインドセットを身につけるために外部から講師を招き職員全体研修を行った。全教職員を生徒の研究活動のファシリテーターに位置付け、松浦市職員等や地域事業所と協働して生徒の支援に当たることとした。支援の内容や方法については、事前に活動内容について確認し、事後にはカリキュラム開発等専門家による助言を踏まえた振り返りを行った。
 - ・フィールドワークをはじめとする地域との協働活動においては、プロジェクトチームがコンソーシアム等との連携を図りながら、教職員の活動を支援した。
- ③カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
 - ・コンソーシアムの構成メンバーが生徒の研究活動のアドバイザーとなり、本校教職員とともに生徒の支援に当たった。
 - ・7月と2月には、松浦市長を座長とした、研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図るために、コンソーシアム会議を行った。

1 1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定と達成状況

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		単位（%）		
		R2	R3	R4
a	卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を図るものとして、管理機関において設定した成果目標	75	80	85
	地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したいと思う生徒の割合	37.4	26.8	64.0
	目標設定の考え方：8割以上の生徒が意欲的に取り組むものとして算出			

b	高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標	70	75	80
	高校卒業後に就職する生徒のうち、地元へ就職する生徒の割合	81.8	77.8	75.6
	目標設定の考え方：卒業生の就職先を基に算出			
c	その他本構想における取組の達成目標	50	60	70
	高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したいと考える生徒の割合	40.0	19.4	45.7
	目標設定の考え方：卒業生の進路希望調査を基に算出			
d	その他本構想における取組の達成目標	30	35	40
	大学に進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学した生徒の割合	44.8	64.2	71.4
	目標設定の考え方：卒業生の進路希望調査を基に算出			

- a 目標値には届いていないが（今年度目標：85%）一昨年度から約26%向上している。3年間で生徒の意識は高まり、これまでの課題研究活動において、一定の成果が出たと考察する。
- b 目標値には達していないが（今年度目標：80%）、地域を愛し大切にするという研究開発Iの意識の高さは保っている
- c 昨年度と比べUターンして就職したいと考えている者が約25%向上している。「まつナビ」の活動を通して地元のことを調べ考察した結果がこの結果につながったと考える。
- d について、年々増加傾向であったことから、地域活性化に向けた課題研究と自らのキャリア・プランニングとつながりを一層強める取組ができた。

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		単位（回・%）		
		R2	R3	R4
a	地域課題研究又は発展的な実践の実施譲許を測るものとして、管理機関において設定した成果目標（単位：回）	35	35	35
	学校外での活動回数（半数×回数）（単位：回）	26	30	44
	目標設定の考え方：1年：2回、2年：15班×2回、3年：3回を目標として産出			
b	普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標（単位：回）	3	3	3
	先進校としての研究発表回数（単位：回）	4	3	4
	目標設定の考え方：成果普及のために、研修会等で年間3回以上確保する			
c	その他本構想における取組の具体的指標（単位：%）	90	95	100
	2年次の「まつナビ」の中で、フィールドワークにおいて地元の方にヒアリング・インタビューする生徒の割合（単位：%）	64.4	70.2	89.2
	目標設定の考え方：原則、全員1回は実施するよう指導する			
d	その他本構想における取組の具体的指標（単位：%）	60	70	80
	高校3年間で地域への貢献活動・まちゼミ・地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合（単位：%）	98.8	98.3	95.2
	目標設定の考え方：8割以上の生徒が意欲的に取り組むものとして算出			

- a 目標値 35 回に対し今年度は 44 回であった。少しずつコロナでの制限が緩和され、活動できる場も増加したことが、活動回数を確保することができた要因であった。
- b 構想研究発表、中間発表、校内発表、課題研究発表の計 4 回実施できた。
- c フィールドワークに参加した生徒の 89.2% がヒアリング・インタビューを実践した。
- d 地域におけるボランティア活動参加率は 95.2% と目標値を上回り生徒の積極的な取組が把握できた。

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)		単位 (人・回)		
		R2	R3	R4
a	地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標 (単位: 人)	140	140	140
	「まつナビ・プロジェクト」に関わった外部人材の人数 (単位: 人)	175	184	341
	目標設定の考え方: 1年: 20人、2年: 100人、3年: 20人を目標として算出			
b	その他本構想における取組の達成目標 (単位: 回)	3	3	3
	コンソーシアムの活動回数 (単位: 回)	4	2	2
	目標設定の考え方: 学期に 1 回ずつ行う			

- a 昨年度より 157 人増となり、外部の方々との協働が増え、充実した活動となった。フィールドワークにおける協力してもらうなど、今年度は 341 人が『まつナビ・プロジェクト』に関わった。
- b 今年度は年度当初よりコロナ禍ということもあり、感染拡大防止の観点より、7 月、2 月の 2 回実施予定とした。また、コンソーシアムが実際に生徒活動を構想で終わるだけでなく、松浦鉄道松浦駅のホームのスロープ設置など実践する機会ができた。

1.2 事業総括

(1) 今年度及び 3 年間の成果と課題

① 「開発単位 I」 についての成果

- 教科横断型と地域連携における授業実践による課題発見力・テーマ設定力と地域を愛し大切にする姿勢の育成
- フィールドワークや課題研究発表、論文作成における論理的思考力、コミュニケーション力の育成
- ICT を利活用した授業実施における他地域にも汎用できる課題研究活動の実践

② 「開発単位 II」 についての成果

- コンソーシアム構成員との協働による実践活動の充実

③ 今年度及び 3 年間の課題

- 過年度研究に頼らない、新しく斬新な課題研究テーマ設定
- 生徒一人一人のキャリア形成につながる課題研究テーマ設定
- 提言だけにとどまらない実践活動
- 学校 (生徒) と地域との協働活動におけるマッチング体制の構築

④総括

平成29年度からまつナビ（2年生のみ）がはじまり（導入期）、令和2年から4年度までは、文科省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け（充実期）、本校の教育活動の中心として地域との協働を充実させ、さらにコンソーシアム等の組織を充実させてきた。

今後は、これまでの研究をベースに、コンソーシアムを中心として地域、大学、企業等との連携を深め、生徒の学びの充実及び育成したい資質・能力の定着を図っていききたい（自走期）

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	095-894-3354
氏名	高比良 周一	FAX	095-824-5965
職名	指導主事	e-mail	s-takahira@pref.nagasaki.lg.jp